

<小学校 総合的な学習>

一人ひとりを生かし自ら学ぶ力を育てる問題解決学習の創造

—— 社会科から発展し地域の特色に応じた総合的な学習を通して ——

与那原町立与那原東小学校教諭 宮 城 アケミ

目 次

I	テーマ設定の理由	51
II	研究仮説	51
III	研究の全体構想図	52
IV	研究内容	53
1	「総合的な学習の時間」の意義	53
2	「総合的な学習の時間」のねらい	53
3	「総合的な学習の時間」の活動	53
(1)	横断的・総合的な課題	53
(2)	児童・生徒の興味・関心に基づく課題	53
(3)	地域や学校の特色に応じた課題	53
4	地域の特色に応じた総合的な学習の単元開発	53
(1)	「地域の特色に応じた総合的な学習」の単元開発の視点	53
(2)	「与那原湾」を素材とした単元例	53
(3)	「山原船が来た海辺の町」の単元作り	54
(4)	人材データベースの作成（単元「やんばる船が来た海辺の町」の場合）	54
5	「総合的な学習の時間」の一単元の流れ	55
6	問題解決学習の創造 ー学び方・考え方を学ぶー	55
V	授業実践	57
1	単元名	57
2	単元設定の理由	57
3	単元の指導目標	57
(1)	価値目標	57
4	単元の指導計画	57
5	本時の指導	58
6	授業の考察	59
VI	研究の成果と課題	60
1	成果	60
2	課題	60
	<主な参考文献>	60

＜小学校 総合的な学習＞

一人ひとりを生かし自ら学ぶ力を育てる問題解決学習の創造

—— 社会科から発展し地域の特色に応じた総合的な学習を通して ——

与那原町立与那原東小学校教諭 宮 城 アケミ

I テーマ設定の理由

自ら学ぶ力を育てることは、情報化や国際化の変化が激しい現代社会をたくましく主体的に生きるために大切である。今回の学習指導要領の改訂で「総合的な学習の時間」を創設したねらいとして「課題発見・解決能力」「方法知の習得」をあげているように、一人ひとりを生かすとは、子どもが発見した問いを大事に取り上げ、その問いにこだわることのできる時間を保障することである。与えられた課題ではなく、生活体験の中からの自分の問いや気付きや願いを課題とした場合、子供は内から湧き出る意欲につき動かされ様々な問題解決学習を展開する。

これまでも、社会科の授業で問題解決学習を試みてきた。例えば、「沖縄にも竪穴住居があったのだろうか」と追及した6年の子どもたちは、伊計島の仲原遺跡を調べ「沖縄にも縄文人の暮らしがあった」と感動し、自分達も縄文人の知恵に学んでみようとして「どうしたら竪穴住居が作れるのかな」と新たな問いへと発展させた。やがて、父母や学級を巻き込んで竪穴住居に使われていた材料を見つけだし、アダンで縄を作り、ヤラブの木で家の骨組みを作りだした。縄文時代の学習は、さらに図工との合科で縄文土器作り（学年全体での野焼き）へと広がり、子どもたちの追及は続いた。そこには、確かに主体的・創造的に生き生きと学習する子どもの姿があったが、いくつかの問題点もあった。まず、社会科のすべての単元にこれだけ多くの時間をかけているのは、社会科の時間が足りないという時間の制約の問題がある。2つめに、単元のめあてを越えてどんどん広がる問いがどんなに今日的課題であっても、その単元内では深化・発展させることができず、子供の意欲を押さえて次の単元に入らなければいけないという教科の枠の問題がある。3つめに一人ひとりの課題を把握し個に応じた問題解決への支援がタイミング良くうまく出来ないという指導方法の未熟さの問題がある。

今回創設された「総合的な学習の時間」によって、それらの問題の内、ゆとりのある時間の確保と教科の枠を越えた学習活動の保障という改善がなされることになった。来年度から移行措置に入るというこの時期に現行の教育課程を実施しながら、可能なところから総合的な学習に取り組むという橋渡しとして「社会科から発展し地域の特色に応じた総合的な学習」の単元開発を試みることは意味がある。その際、教科間・学校行事等の関連をはかりながら地域の良さを生かし、子どもの切実な問題・関心を集約し、子どもの側にたった単元にしていくことが大事である。そこで与那原東小学校の場合、目の前が与那原湾（中城湾）であるので、「与那原湾」を中心教材とした単元を開発したい。与那原湾は、まさに子ども達の

足元にあるので体験活動が可能である。また、海上交通・経済・文化に重要な役割を担ってきた歴史を持ち、現在もマリン・タウン・プロジェクトによる「新しい・魅力ある海辺の町作り」を展開している。このように、子ども達にとって興味・関心ある内容がいっぱい詰まっている。つまり、「与那原湾」は子ども達が「ひと・もの・こと」と関わりながら学ぶ場としての条件を備えているといえる。例えば、単元として「ひじきそばをつくろう－3年」「山原船が来た海辺の町－4年」「海の環境問題－5年」「マリン・タウン・プロジェクト－6年」「与那原湾に戦争がやってきた－6年」等が考えられる。特に4年の単元「山原船が来た海辺の町」については、今回の授業実践を通して問題解決学習の方法を深めたい。

そこで、社会科から発展し地域の特色を生かした総合的な学習を通して問題解決学習を工夫すれば、一人ひとりを生かすことができ、自ら学ぶ力が育つと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

地域の特色に応じた「総合的な学習の時間」において、自ら課題を見つけそれを解決するための方法を学び、追求する時間と活動を保障するならば、一人ひとりが生かされ自ら学び自ら考える力が育つだろう。

Ⅲ 研究の全体構想図



IV 研究内容

- 1 「総合的な学習の時間」の意義（省略）
- 2 「総合的な学習の時間」のねらい（省略）
- 3 「総合的な学習の時間」の活動

「総合的な学習の時間」の学習活動は、「総合的な学習の時間」のねらいを踏まえ、地域や学校の実態に応じ、各学校が創意工夫して行う。

(1) 横断的・総合的な課題

- 現代的課題（例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康など）
- 人間の社会的・生理的・心理的問題を扱う「人間の学習」
- 人権の学習や進路や生き方の学習
- 地域の文化、歴史、自然、産業などをトータルに学ぶ「郷土の学習」

(2) 児童生徒の興味・関心に基づく課題

子ども自身、日頃何にこだわりを持って生活しているのか、そのこだわりや興味・関心から学習課題を設定する。「こんなことをやってみたい」「このことをもっと知りたい」という子どものつぶやきや要求を追求させる。

- 身の回りの小動物・昆虫・植物から環境学習へ
- スポーツ・芸能・人・宇宙・個人的に得意な分野など

(3) 地域や学校の特色に応じた課題

○地域社会は、子どもの生活の場であり同時に現代社会の課題が具体的に現れる場でもある。したがって、(1)や(2)の課題との接点が大きく、教材開発が幅広くできる。

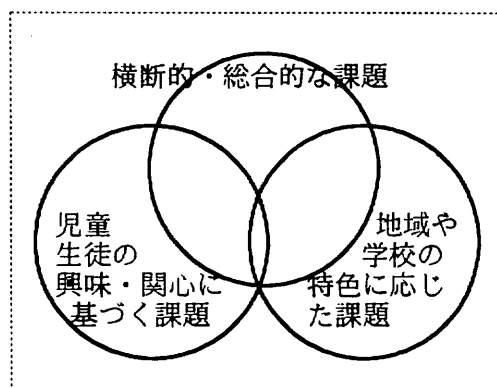
＜例＞・河川・山野・海・湖沼・公園・森・道・祭り・食文化・伝統工芸・歴史・生き物・城址・特産物・石碑・歌碑・演劇・造形・音楽・文芸・遊び・民話・野鳥・交通・生活様式・人など。

○学校行事や道徳、特別活動と関連しての活動が体験的学習としてとりいれやすい。

＜例＞遠足・修学旅行・宿泊学習・空き缶拾いなど

これら(1)から(3)は、特色ある学校づくりと関連してそれを複合して組み合わせ、子どもの興味・関心へと集約して子どもがわに立った活動にしていくことが大事である。また、このような学習活動を行うにあたって、自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れることとする。

図1 総合的な学習の活動



4 地域の特色に応じた総合的な学習の単元開発

(1) 「地域の特色に応じた総合的な学習」の単元開発の視点

- ①自分の地域で「人・もの・こと」と関わりながら地域が学びの場になれる内容。
- ②子どもの、より身近にあり生活との関わりが深く、興味・関心を引き起こすことのできるもの。
- ③子どもたちが地域での体験活動ができ、その背景にある歴史まで発見できるもの。
- ④子どもたちを取り巻く自然の営みの不思議さや地域のすばらしさがとらえられるもの。
- ⑤子どもたちの力で調べることができ、調べることによって問題が発展し広がり深まりができるもの。

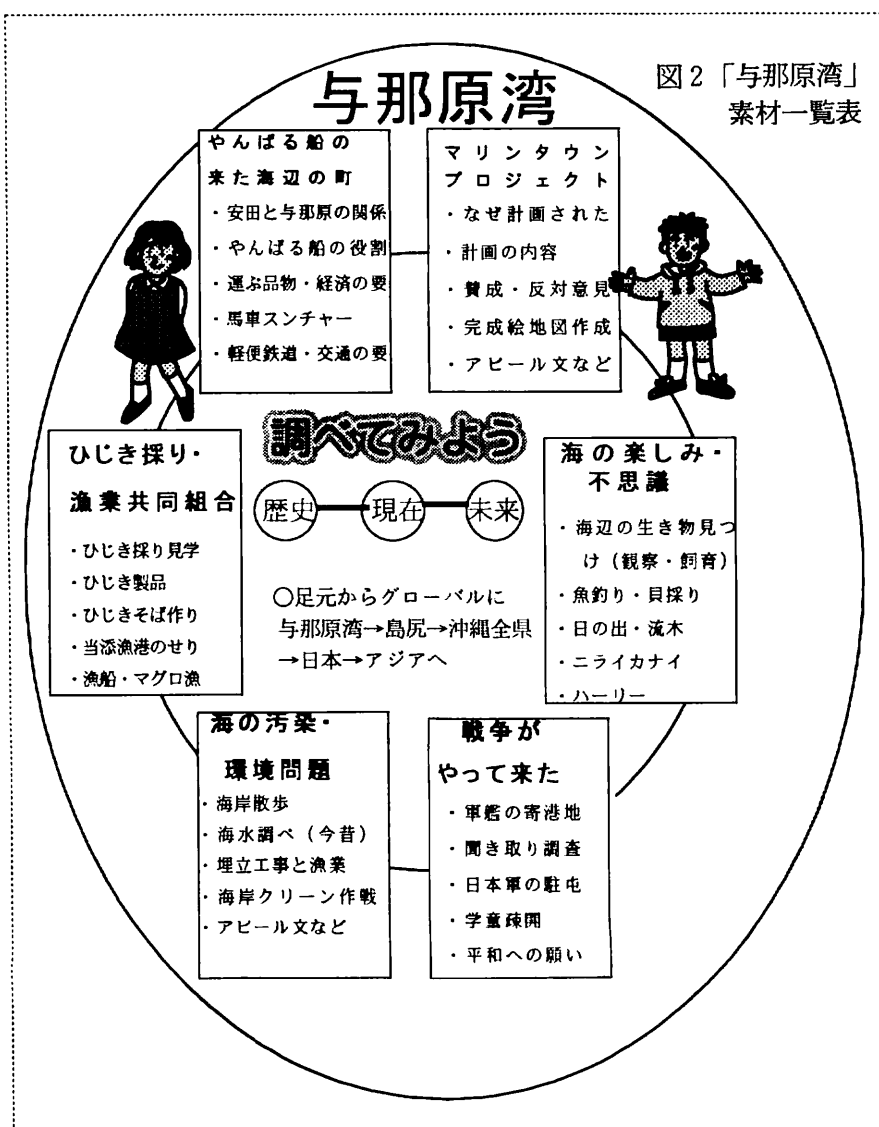
(2) 「与那原湾」を素材とした単元例

「地域の特色に応じた総合的な学習」の「応じた」という場合、現にあるものを生かすという側面と、今は、ないけれど将来の展望を考える場とする側面をも含んでいる。そこで、本校の目の前に広がり、単元開発の視点の①から⑤を満たしている「与那原湾」を総合的な学習の中心教材として、次のように各学年の単元を構想した。

- ①海の楽しみ・不思議——海辺の生き物見つけ（観察・飼育）・魚釣り・貝採り・日の出・流木・ニライカナイ・当添ハーリー・与那原祭りのハーリー・海岸ウォッチング・鳥
- ② ひじき採り・漁業協同組合——与那原漁業協同組合を訪ねて・ひじき採り見学（ひじきを刈り採るー真水で洗うーひじきを蒸すー乾燥させるー製品）・ひじきそばや料理を作ろう
- ③やんばる船が来た海辺の町——やんばる船が運んだ品物（薪炭・木材・藍玉・豚）（酒・日用雑貨・瓦）やんばる船・馬車スンチャー・軽便鉄道・材木屋・やんばる船のイメージを活用
- ④海の汚染・環境問題——与那原海岸ウォッチング（海岸のゴミの種類や量）・海水の汚染・マリン・タウン工事による海の汚染や漁業に及ぼす影響・海岸クリーン作戦・アピール文
- ⑤マリン・タウン・プロジェクト——埋め立て地探検・計画の内容調べ・マリンタウン絵地図作り・マリン・タウンに期待する点や反対する点・アイデアを取り入れてもらう方法
- ⑥与那原湾に戦争がやって来た——日本軍の軍艦の寄港地にされる・やんばる船や軽便鉄道が軍の物資運びに使われる・日本軍が駐屯・米軍による攻撃・学童疎開などがあげられる。以上の素材を教材化すれば子どもたちは、自分の地域の歴史や伝統・文化に誇りを持ち心の支えにするだろう。
- (3) 「山原船が来た海辺の町」の単元作り

本研究では、4年生の社会科「くらしと水」の学習の後、発展教材として北部と与那原の関わりを与那原湾を通してもっと多方面から考えて見たい。

「くらしと水」で山原が、水源地として自分達の生活に深く関わっているという認識を持った子どもたち。それは、距離の上でも気持ちの上でも遠く離れている山原が実は、「飲み水・洗濯・お風呂等、毎日の生活に影響を与えていた」という発見により子どもたちの気持ちを山原に近づけた。その感動を基に、そのような関わりが、昔は生活に必要な薪の確保として山原船によってなされていたことを思い起こさせ（3年の社会科で山原船にふれている）総合的な学習の時間「大好き与那原湾ー山原船が来た海辺の町」へ発展させたい。互作りの関連やマールン船の関連など足もとである与那原から島尻ー沖縄全体ー日本ーアジアへと視野が広がる単元にする。



- (4) 人材データベースの作成（単元「やんばる船が来た海辺の町」の場合）

地域には、長い時間をかけて築き上げてきた歴史や文化があり、そこに暮らしてきた人々の喜びや

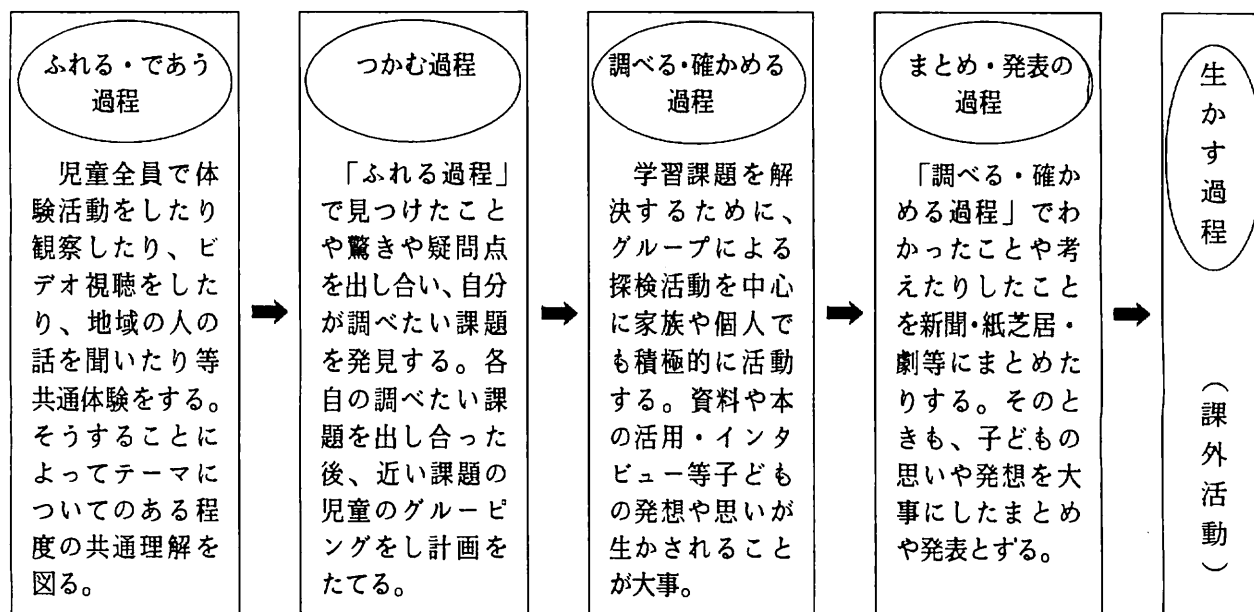
悲しみ・知恵がある。例えば、「やんばる船」「馬車スンチャー」と関わって来た人々にはそれらが顕著に現れていて、語る人々の情熱から子どもたちはその生きざまを学ぶ。そして、それはいつしか、子どもたちにとって「生き方への自問」となって「生きる力」の芽を育んでくれる。

「やんばる船が来た海辺の町」人材データバンク（活動しながらその都度書き加えていく方法）

	人 材	概 要
1	Kさん 板良敷在住 80歳	やんばる船の船員でやんばる船の部品の名前をすべて知っている。 長さ3メートル程の正確なやんばる船の模型を作っている。
2	M・Mさん 板良敷在住 91歳	やんばる船の船主で 安田にも住んでいたもので、やんばる側の情報と与那原側の情報のどちらにも詳しい。
3	Y・Aさん 親川通り 60代	先祖が船主でやんばる船が来てにぎやかだった頃の町のように詳しい。材木屋の説明や軽便鉄道の路線・利用した経験を話してくれる。
4	S・Oさん 70代 洋人くんのおじいちゃん	やんばる船・くり船・進貢船の模型を作る。小さい頃、停泊しているやんばる船で遊んだ経験がある。与那原町の歴史に詳しい。

（ 省 略 ）

5 「総合的な学習」の単元の流れ



6 問題解決学習の創造—学び方・考え方を学ぶ

総合的な学習の時間の流れは、問題解決学習の流れと一致する。つまり、問題解決学習の流れは、①驚きや感動のある学習場面との出会い（ふれる・であう過程）②学習課題作り（つかむ過程）③個やグループが生きる調査活動（調べる・確かめる過程）④個やグループが生きる表現活動（まとめ・発表の過程）⑤広がり・応用・発展（生かす過程）となる。一人ひとりを生かし自ら学ぶ力を育てるためには、この問題解決学習の過程において新たな手だてや支援創造が必要となる。

(1) 自らの課題発見の支援

子ども達は何が課題となるのかよく分からず、結局自分で課題が見つけれない場合が多い。それは、日頃教師の方で学習課題を与えて続けてきた弊害に寄る物とも考えられる。総合的な学習において何よりも、子ども達が「自らの課題を見つける」ことが重要な出発点である。そこで、子どもが何に興味・関心を持っているのか理解し、タイミングを見て課題作りへの支援をすることが必要である。その際、特に気を付けなくてはいけないことは、急がせて待てずについ教師が課題を与えて「させてし」まうというこれまでのパターンへ陥ってしまうことである。聞いて支援し見守る時間が大事である。（図3興味・関心マップ参照）

(2) 必要な情報にアクセスできる環境

総合的な学習には教科書がない。多様な子ども達の問題の追求に応えられる資料の収集を教師もやっておかなくてはならない。図書館や町史編纂室や役場から入手した資料は、数に限りがあり、難しい言葉や統計資料も出てくるので、随時コピーしたり補説したりして活用しやすいようにしておく。また、教師が地域を子どもに先立って探検して素材研究を深めて地域マップを作成したり（図4参照）、地域の人々と交流して人的ネットワークを作り出すことも重要な環境作りである。

(3) 情報の集め方・調べ方の学び合い

公共施設への電話のかけ方・依頼やお礼の手紙の書き方・ファクシミリの使い方・インタビューのし方・資料や本やインターネットの活用の仕方・写真の撮り方等を、学ぶことによりどの子も自分の問いに関連のある方法や自分の思いにあった方法で安心して調査活動ができる。そこで、それらの極簡単に基本的なガイドを作成しておき必要なときにすぐ探検隊・グループで練習できるようにしておく。（資料1参照）

(4) 子どもたちの主体的なまとめ方

まとめ方には、ノート・レポート・ビデオ・音楽・模型・新聞・キューブペイント（パソコン）による紙芝居・インタビュー劇・詩などさまざまな表現方法がある。その中から自分なりに気に入った方法で、驚きや発見・新しい提案や問題・感じ取ったことなどを楽しく表現する。

図3 「山原船が来た海辺の町」 興味・関心マップ（課題見つけマップ）

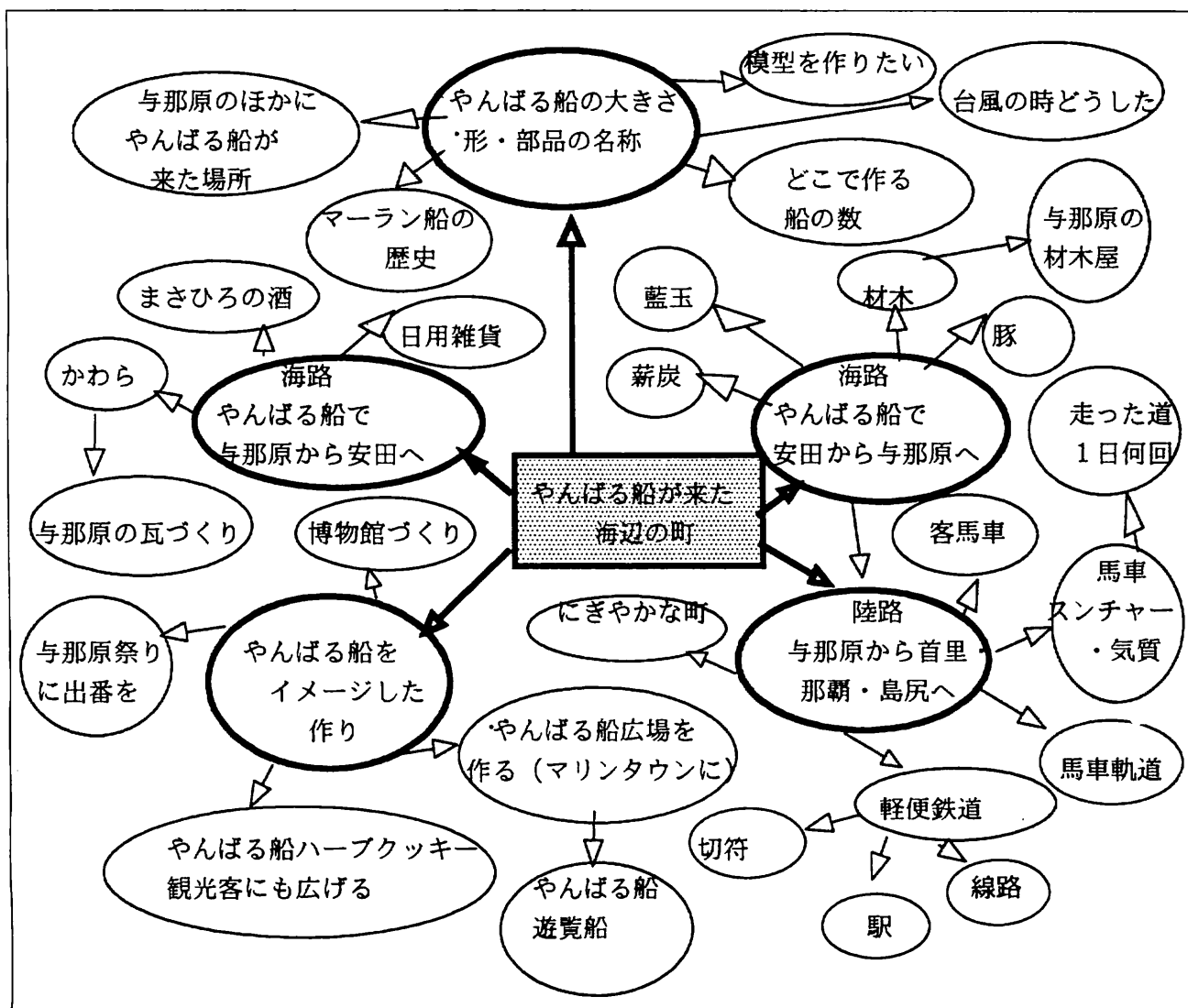


図4 地域マップ（省略）

資料1 インタビューガイド

1、あいさつ

例

「今日はいそがしい中、私たちのために時間を作ってくださってありがとうございます。」

2、自己紹介

○自分で作った名刺（めいし）やグループの探検隊カードがあればわたす。相手の人が名前を確かめたりする時に助かる。

○自己紹介は、①にここに笑顔でさわやかに ②短くはっきり ③その日の自分の係もいう。

例

「私は与那原東小学校 4年2組の 宮城アケミです。やんばる船の話が聞けるのでとてもうれしです。今日はカメラの係（記録 ビデオ しかい・・・）です。よろしくお願いします。」

3、インタビュー

○前もって「インタビュー用紙」に質問を3つほどまとめておく。

○質問1・質問2・・・を聞く人と分かったことを書く人をきめておき、みんなで協力してやる。

○質問をする時はていねいなことばではっきり話す。

○話を聞くときは、話やすいふんいきを作る。

①うなずいたりしてあいずちをうつ。「あ！そうなんだ」「すごい」

②感動をすなおに言葉や表情や態度にあらわす。

③わかったことはかくにんして、わかりにくかったことはもう一度聞きなおす。

④よそ見をしたり、関係のないおしゃべりをしたりせず、話をする人の目を見て聞く。

⑤そこにあるものをさわったり、いじったりせず、おちついて聞く。

例

「1つめの質問をします。やんばる船がきたころの与那原町はどんなふうになぎやかだったのですか。教えてください。」

4、お礼のことば

5、きねんに写真をとる。

話してくれた人のところに集合して写真をとり、後でお礼の手紙といっしょにおくるといい。

写真1 インタビュー場面
（山原船について説明する村吉さん）



写真2 メモを取る子ども達



V 授業実践

1 単元名 「大好き与那原湾」 — 山原船が来た海辺の町 —

2 単元設定の理由 （省略）

3 単元の指導目標

(1) 価値目標

○ 与那原湾に山原船が行き来していた頃の私たちの町「与那原」は、物資の中継地・交通の要地として経済的にも文化的にも栄えていたことを知り、自分たちの町の良さを見つめる。

○ 山原船を与那原町のアピールやイベントなど今に生かせないかアイディアを出し未来の与那原の町づくりの夢を持つ。

(2) 観点別指導目標 （省略）

4 単元の指導計画

過程	時	学 習 内 容
ふ れ で る あ う	1	○生活に欠かせない物で今は、「飲料水」が昔は、「薪」が山原から与那原に運ばれて来ることについて話し合う。また山原船の模型をみながら薪の他にどんな物を運んだか予想する。
	2	○与那原の海岸を探検しながら遊び、山原船が来た頃のイメージを描く。
	3	○山原船に乗っていた頃の話を楽し家さんに聞く。
	4	○国頭村安田の古堅さんから、山原船に積まれていた品物など山原側の話を聞く。（ビデオ）

つか見込む	5	○与那原湾に山原船が来た頃のこと、自分が調べたい課題を決める。その後、同じ課題や近い課題の者同士でグループを作る。
	6	○それぞれの探検隊で、課題解決に向けて学習計画を立てる。
	7	○電話やインタビュー等による情報の集め方や取材の仕方を学び練習する。
調べる	8	○それぞれの探検隊の課題解決に向けて活動する。
	12	①地域のお年寄りや詳しい人にインタビューする ②公共施設の担当の方にインタビューする。 ③資料や本から調べる。④観察・見学・調査活動をする。
確かめる	13	○中間報告会に向けての準備として、これまでに調べてきたを簡単にまとめる。
	17	○中間報告会の発表の役割分担をし、発表の練習をする。 ○それぞれの探検隊が、中間報告をする。発表を聞いて、すばらしいと思った活動をこれから取り入れるための話し合いをする。
	18	○まだ調べていなかったことを解決するための活動を続ける。
	22	○中間報告会の時に得た新しい情報を生かして「作る活動」「交流する活動」など个性的でダイナミックな活動にする。
まとめ発表	23	○まとめ方を考える（本・巻物・新聞・地図・ポスター・パンフレット・ビデオ・録音・写真集・インタビュー劇・クイズ・紙芝居・ペープサートなど）
	26	○レイアウトして内容を分担するし、作業に使う材料や用具をそろえる。 ○作業する場所を確保し、自分の特技を生かしながら協力して楽しくまとめる。
	27	○発表のめあてを確認し、発表に使うものを揃えそれを使って練習する。
	30	○発表会をする。（発表をする時は、はっきりとみんなに聞こえる声でやる。） ○「大好き与那原湾ーやんばる船が来た海辺の町」の学習を振り返ってまとめをする。

5 本時の指導

(1) 単元名 「大好き与那原湾」ーやんばる船が来た海辺の町

(2) 本時の指導目標

- ①これまでの活動をもとに考えた「やんばる船が来たころの与那原」や「やんばる船を今に生かす」について探検隊でまとめて報告することができる。
- ②自分達の活動を振り返って立ち止まり、他の探検隊の活動からすばらしい部分を学び、これからの活動に取り入れることができる。

(3) 授業の仮説

- ①自分達の活動を途中で振り返りまとめる事により、今後の活動の修正や追加ができ、より個性的な活動へと発展していくだろう。
- ②他の探検隊と情報交換することにより、自分の考えを述べることに、友達の考えを理解することの両方が大事であることに気付くだろう。

(4) 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 留 意 点
1 学習のめあてを確認する。 めあて ○探検隊のこれまでの活動を分かりやすく発表する。 ○他の探検隊の中間報告も、質問や意見が言えるようにしっかり聞く。 ○中間報告会をして、ほかの探検隊のすばらしい活動を取り入れよう。	報告会をしよう。 

2 それぞれの探検隊が中間報告をする。	○発表での役割を自分で選んで練習してきたことに誇りを持ち（自己決定体験の評価）自信を持って発表ができるように支援する。
○やんばる探検隊 「やんばる船が来た頃のにぎやかさ」 ・村吉さんへインタビューしたこと ・町立図書館の資料を調べたこと ・洋人くんのおじいちゃんの話 ○歴史探検隊 「マリンタウンに山原船は、浮かべられないか。」 ・与那原町役場埋立開発課を訪ねて ・佐久川さんにインタビュー ・綱曳き史料館2階展示室	
3 探検隊の報告を聞いての質問や意見をのべる。	○自分たちの報告以外に他の探検隊の活動に興味・関心を抱いて熱心に聞いているか観察し、集中できるように励ます。
4 ゲストティーチャー（上江洲さん）の話を聞く。	○発表後の意見交換を通して、自分たちの探検隊もこうありたいと共感できる活動・創造的な活動のイメージを豊かに持てるようにする。
5 授業を振り返る	○与那原町史編纂室の上江洲さんの話を聞きこれからの活動に生かす。
6 次時からの学習について知らせる。	○中間報告会で分かったことをまとめ、新たな活動への意欲付けにする。

(5) 評価（省略）

6 授業の考察

(1) 授業仮説①の考察

- これまでの活動を振り返る作業として、ワークシートに沿ってグループで話し合うことをした。それにより、「インタビューや見学等の活動」をやりっぱなしにするのではなく立ち止まってまとめることができた。その際、一人ひとりが試行錯誤して内容を自分のものにしていてので発表の段階で教師の指示を待たなくてすむ。したがって、本時ではワークシートがそのまま発表シナリオの役割をはたして、自分の発表する部分を自信を持って安心して発表していた。ことばにつまったりした時も仲間でそっと相談し助け合っていた。

- 発表を分かりやすくするためにインタビューしている場面の写真や資料・地図・ビデオ・山原船の模型等を準備し、生き生きと楽しく発表していた。

(2) 授業仮説②の考察

発表を聞いて情報交換し自分の考えをを述べることと友達の考えを理解するこの場面では充分時間を与えることができず活発な話し合いができなかった。そこで、ワークシートに「発表を聞いての感想と教えてあげたいこと」のまとめをした。それによると、まだまだ一部分の子ども達ではあるが、

自分たちの活動の中から役立ちそうなものを取り上げて教えてあげていた。例えば「実際に馬車スンチャーが歩いていた所をあるいてみたらどうか」など説得力があり少しずつ学び方を身に付けていることが分かる。

資料3 児童のワークシートより

馬車スンチャー たんけんたいへ

感想

きょう夏先生へインタビューをしたのはすごいと思ったよ。それはどうしてきょう夏先生のかいしゅんが馬車スンチャーをひいたのかを聞いてみた。きょう夏先生はいいにインタビューしたところを書いてくれたからです。

教えてあげたいこと

いっしょにやんば原せんが止まっていた所だ馬車スンチャーが走っていた所を見ることがいいと思います。そこを歩いてみたりいいと思います。そしたらすてきな。

大塚アケミ先生へ

春木 より

私がそうこうのおもしろいと思った所は、仲間と、インタビューに行ったりして、いろいろな人とうれあつてことができるところです。

アケミ先生が来て、その頃の時間をのほろつた。だて思ってたけど、今はあの大事な思い出。あの時間をどうしよう。その頃の時間に馬車スンチャーや山原船を調べる時、やだと思っただけで、今、調べてきて、きくで、すごいやりたけと書いてます。これからもよろしくおねがいします。

アケミ先生へ

VI 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 総合的な学習単元「やんばる船が来た海辺の町」において自ら課題を見つけるための体験や時間を保障すると、教師の支援を得ながらではあるが、自分の興味・関心をに基づいて最終的には自分の意志で学習課題を見つけることができ解決への意欲を持つことができた。
- (2) グループで探検・取材に出かけることから、グループ内で友だちとの関わり方や協力する事の大切さを体得できた。
- (3) 地域の人々との出会いの場を作り、山原船や馬車スンチャーなどの話題を通して与那原を見つめ、与那原の今・昔・未来をつなげて考えるきっかけになった。
- (4) 学び方を学ぶことが問題解決学習には不可欠であり、いろいろな方法知を自分のものとするにより、一人ひとりの思いが表現活動に生かされた。

2 課題

- (1) 地域の素材をさらに掘り起こすことや・学習環境の整備を行いたい。
- (2) 「与那原湾」をテーマとした単元開発を重ねていく。
- (3) 単元の流れの「ふれる・であう過程」の活動の時間を増やし子どもが自ら学習課題を見つけることへの支援のあり方の研究を深める。
- (4) インタビューや見学など校外での活動を安全に効果的に進めるために、家庭や地域との連携の在り方を考える。

<主な参考文献>

山極隆・小林毅夫	『総合的な学習をどう創るか』	明治図書	1999年
高階玲治 編	『実践 総合的な学習の時間』	図書文化	1998年
河野重男 監修	『新教育課程の論点 徹底理解』	教育開発研究所	1998年